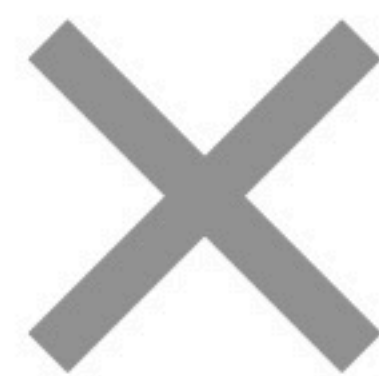




むすんで、うみだす。

京都産業大学



ベリタスアカデミー

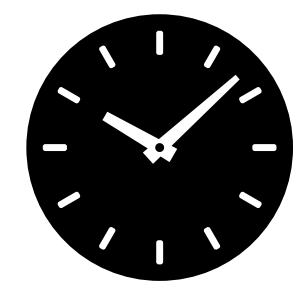
01

京都産業大学

一般選抜入試問題の

傾向

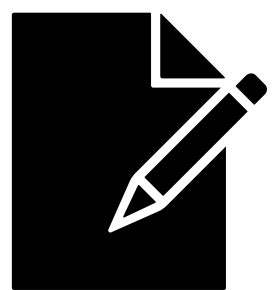
国語の試験時間と配点



試験時間

.....

80 分



配点

.....

100 点

一般選抜入試の問題構成

全問マーク式

| | (一) | (二) | (三) |
|------------|------|---------|------|
| 出題内容 | 評論文 | 小説文・随筆文 | 古文 |
| 設問数 | 8～9問 | 9問 | 6～7問 |
| 配点 | 40点 | 35点 | 25点 |
| 解答時間 目安 | 30分 | 25分 | 20分 |

＊2科目型では、〔一〕、〔二〕の大問2問構成

02

京都産業大学

一般選抜入試問題の

対策

POINT

リーズニング（理由づけ）を意識！

「なぜその答えになるのか」を本文からの根拠で説明できるように。正当探しは犯人探し。なんとなく感覚で選ぶのではなく、本文中の証拠⇨根拠となる文を探す練習をする。

↓必ず証拠を見つけてから解答すること！

〔一〕 評論文

評論文では、本文全体を完璧に理解するよりも、設問に必要な部分を正確に読み取る力が求められる。本文接続語などの論理標識に注目し、主張や因果関係を整理して読むことが重要。選択肢は感覚で選ばず、本文中の根拠をもとに判断する「リーズニング」が得点の鍵となる。漢字や評論用語といった知識もしっかりと身につけておく必要がある。

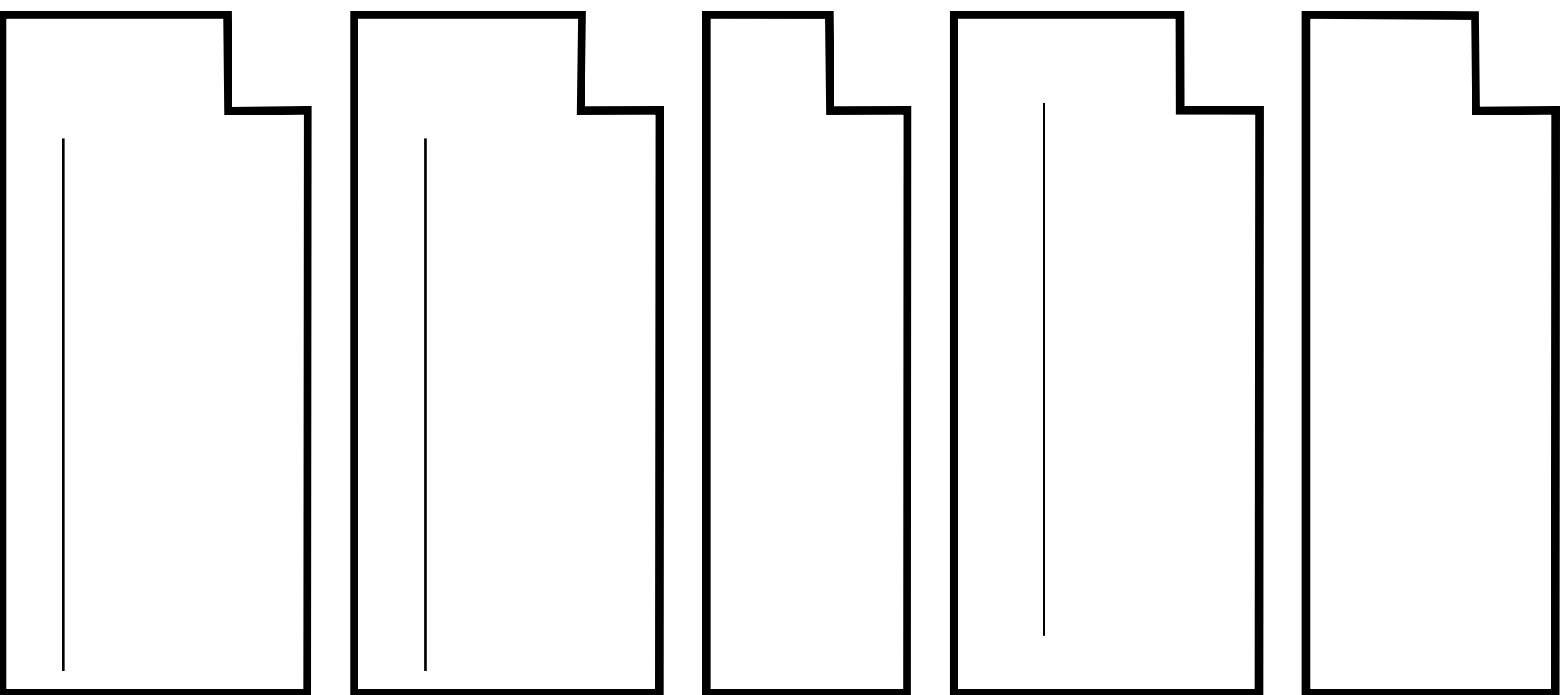
POINT

論展開のカタマリを見抜く！

評論文は、筆者の思考の流れ＝論展開（論理の進み方）で構成されている。

その中で、文章全体をいくつかの意味のブロック（段落群）に分けて読むことが大切。

本文を最初から最後まで同じ調子で読むのではなく、「どこで話題が変わったか」を見極めること。



POINT

論理標識（接続語）に注意する！

評論文は「論理」でつながっています。

「だから」「しかし」「たとえば」「つまり」などの
接続語＝論理標識を意識して読むことで、筆者の思考
の流れが見えてきます。



「しかし」「ところが」↓反対・逆接。筆者の主張が
現れる直前に多い。

「つまり」「要するに」↓まとめ。重要な結論が来る。

「たとえば」↓具体例。前の文の説明や補強。

「したがって」「ゆえに」↓結論。

💡読むコツ…接続語を見つけたら、その前後の文を

「因果・対比・具体例・結論」のどれかに分類して読
んでみよう。

POINT

パラフレーズを意識する！

パラフレーズとは、「同じ内容を別の言葉で言い換えること」。

現代文では筆者の主張が一度きりの表現で書かれることはほとんどなく、文中で繰り返す・対比・反転を使って多面的に説明されます。

つまり、設問を解くためには「言い換え表現」「同じ意味の再提示」を正確に見抜くことが欠かせません。

「一」次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

私たちにとって非常に大事なものは、自然であるか不自然であるかという価値判断です。これは、正義や真偽というのとは少し違っています。なにが自然かと考えてみましょう。

かつて「あなたが最も自然だと思う風景を選びなさい」というあるアンケートで、圧倒的に一位に選ばれたのが、秋に水田の稲穂が実ってこうべを垂れて秋風に穂波が揺れている風景です。

どう考えてもこれは自然ではありません。田圃たんぼのそのような状態は、徹底的に人間の手が入って初めて可能だからです。でもそれも日本社会では、自然、なんですよね。

自然というのも決定的な自然なるものがどこかにあって、それを自然だと考えなければならぬ、という意識とは違った所に私たちの感性や知性はあると思います。それを無理やり壊していく必要はないのです。それはもったいない話で、われわれの社会のものの決め方の中で、A 不自然だからちよつとやめておきたいという判断は、大事な判断だと思っています。

たとえば、生命科学のさまざまな分野で人間の欲望が「1」ヒダイ化しているのを見たとき、日本人の社会の中にある常識と、ちよつと高い言葉でいえば良識、それも私たちの社会を動かしてゆく大切な要素なので、それを正義とか真偽とかいう言葉で捻じ曲げていくことは、不自然なことにはちがありません。

この二〇一〇年五月に、WHOの年次総会は海外に渡航して臓器の提供を受けることを自粛するよう各国に求める新たな指針を承認しました。

いま、国際的には、日本の病気の子どもが国外の「資源」移植の臓器^ををお金を出して買っている事態がみえています。そのこと自体は、生命倫理の特定の倫理観だけに限って議論できない問題です。国際社会の中で日本の立場をどうするか、というまったく別の解釈を必要とする問題だからです。そういうところまで視野に入れないと、問題の落としどころを見出すことはできません。

だから生命倫理というのをせまい原理の世界に限ってしまつて、そこから狭い範囲の中で、正論を引き出したとしても、その正論を一〇〇パーセント貫けるかどうかについては、まさに政治的な解釈が必要になってきます。B そういうものを醜い妥協と考えるかといえ、私は、日本人は必ずしもそれを醜い解決策とは思つてこなかったのだらう、と思います。

話が先走りすぎたので、多少は原理的問題に戻しましょう。

生命倫理の問題が起こってきたのは、決してそんなに古い話ではありません。

もちろん、医療倫理ということになれば、それこそギリシア時代から、「注1」ヒポクラテスの誓い^{など}、医療者の倫理という問題意識は常にあったわけです。しかし、私たちが今直面している生命倫理の問題は、こうした伝統的なシヨク「2」ノウに関わる倫理とは意味合いが違います。議論しなければならぬ、いや、議論だけではなくて早急に決断を下す必要を突きつけられた課題です。

言うまでもなく、現在の生命倫理の問題が展開される背景には、科学技術の急速な発展がありました。かつては、生物学、生理学、医学などと呼ばれていた諸領域が、今では「ライフ・サイエンス（生命科学）」という言葉で括^くるしかないほど広範囲かつ複雑にかかわりあい、進化しました。けれど、そこにおける倫理観というものを、科学者たち自身は必ずしもヒリヒリとした現実感覚の中で感じているとはいえないのです。

それは、科学者共同体が一般社会と隔絶しながら科学を進展させてきたことと、関係していると私は思います。今日、生命科学にのぞんでも、科学者が自らのうちに見出す倫理観というものは、ギリシア時代の「ヒポクラテスの誓い」と同じく仲間内の行動規範にすぎないのかもしれない。科学者自身も社会の側も、当たり前のようにして、こういう状況を歴史の中でごく自然に受け入れていたところに、綻び^{ひび}—という言葉が適切かどうかわかりませんが—が生まれてきた。そのもっとも顕著な部分の一つが、生命科学の展開に伴ってあからさまになってきた、ELS—（倫理的・法的・社会的問題）と言われる問題です。

私は、ここで、かなり大きな歴史的な転換が起こっているように思います。

科学化された社会に「C 公共的課題」というべきものが生まれてくる。たとえば、注2」ES細胞や臓器移植、生殖医療の研究や実験に際して、生命をどうとらえるのか、そこで何をやってよく、何をやってはいけないのかという問題が、従来のような科学的な判断ではなく、公共的な判断として、答を迫っているとも言えます。

〔一〕次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

私たちにとって非常に大事なものは、自然であるか不自然であるかという価値判断です。これは、正義や真偽と
いうのとは少し違っています。なにが自然かと考えてみ
ましょう。

かつて「あなたが最も自然だと思つ風景を選びなさい」というあるアンケートで、圧倒的に一位に選ばれたのが、秋に水田の稲穂が実つてこうべを垂れて秋風に穂波が揺れている風景です。

どう考えてもこれは自然ではありません。田圃たんぼのそのような状態は、徹底的に人間の手が入つて初めて可能だからです。でもそれも日本社会では、自然、なんですよ
ね。

自然というのも決定的な自然なるものがどこかにあつて、それを自然だと考えなければならぬ、という意識とは違った所に私たちの感性や知性はあると思います。それを無理やり壊していく必要はないのです。それはもつたない話で、われわれの社会のものの決め方の中で、A不自然だからちよつとやめておきたいという判断は、大事な判断だと思っています。

たとえば、生命科学のさまざまな分野で人間の欲望が（一）ビダイ化しているのを見たとき、日本人の社会の中にある常識と、ちよつと高い言葉でいえば良識、それも私たちの社会を動かしてゆく大切な要素なので、それを正義とか真偽とかいう言葉で捻ねじ曲げていくことは、不自然なことにはちがいません。

問二 傍線部A「不自然だからちよつとやめておきたいという判断」とはどのようなものか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 理屈や知識だけで結論を出すのではなく、社会の中で育まれた感覚や常識も重んじながらやめようという判断。

2 社会になじまないことが多いため、自然の摂理に反することには従わないと考えてやめるという判断。

3 人間社会は自然と密接に結びついているため、自然を損なうようなことは極力避けておこうという判断。

4 正義や真偽に強い懐疑を抱き、自然にそっぴると感じられる常識や良識に照らし合わせてやめようという判断。

問二 傍線部A「不自然だからちよつとやめておきたいという判断」とはどのようなものか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

① 理屈や知識だけで結論を出すのではなく、社会の中で育まれた感覚や常識も重んじながらやめようという判断。

2 社会になじまないことが多いため、自然の摂理に反することには従わないと考えてやめるという判断。

3 人間社会は自然と密接に結びついているため、自然を損なうようなことは極力避けておこうという判断。

4 正義や真偽に強い懐疑を抱き、自然にそっぴると感じられる常識や良識に照らし合わせてやめようという判断。

問一 傍線部（1）～（3）の片仮名の部分と同じ漢字を使うものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

（1） ヒ^レダイ

1 ヒク^ツな態度をとる

2 草でタイ^ヒを作る

3 ヒル^イなき存在

4 仕事でヒ^ヘイする

問一 傍線部（1）～（3）の片仮名の部分と同じ漢字を使うものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

（1）ヒ^ダイ 肥大

1 ヒクツな態度をとる 卑屈

2 草でタイヒを作る 堆肥

3 ヒルイなき存在 比類

4 仕事でヒヘイする 疲弊

この二〇一〇年五月に、WHOの年次総会は海外に渡航して臓器の提供を受けることを自粛するよう各国に求める新たな指針を承認しました。

いま、国際的には、日本の病気の子どもが国外の資源＝移植の臓器_ををお金を出して買っている事態がみえています。そのこと自体は、生命倫理の特定の倫理観だけに限って議論できない問題です。国際社会の中で日本の立場をどうするか、というまったく別の解釈を必要とする問題だからです。そういうところまで視野に入れないと、問題の落としどころを見出す_{みいだ}ことはできません。

だから生命倫理というのをせまい原理の世界に限ってしまったって、そこから狭い範囲の中で、正論を引き出したとしても、その正論を一〇〇パーセント貫けるかどうかについては、まさに政治_{てい}的_{てき}な解_{かい}釈_{しやく}が必要になってきます。Bそういうものを醜い妥協と考えるかといえば、私は、日本人は必ずしもそれを醜い解決策とは思ってこなかったのだらう、と思います。

問三傍線部B「そういうもの」を説明したものと
して最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 統治者が恣意的に判断したことでも社会にとっ
て必要なことであるならそれを結論として受け
入れていく姿勢。

2 政党同士の駆け引きの末に得られた結論を、正
論からずれていたとしても民意の反映として受
け入れる姿勢。

3 社会が抱える事情や利害関係なども踏まえなが
ら、原理的にはつじつまが合わないことでもそ
れを結論とする姿勢。

4 国際社会で評価を得ていくため、不公正な政策
であっても解釈を工夫することで見栄えをよく
していこうとする姿勢。

問三傍線部B「そういうもの」を説明したものとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 統治者が恣意的に判断したことでも社会にとって必要なことであるならそれを結論として受け入れていく姿勢。

2 政党同士の駆け引きの末に得られた結論を、正論からずれていたとしても民意の反映として受け入れる姿勢。

3 社会が抱える事情や利害関係なども踏まえながら、原理的にはつじつまが合わないことでもそれを結論とする姿勢。

4 国際社会で評価を得ていくため、不公正な政策であっても解釈を工夫することで見栄えをよくしていこうとする姿勢。

（二）小説文・随筆文

小説文は感情を想像で読むのではなく、本文中の描写やセリフなどの根拠から人物の心情を読み取ることが大切。心情の変化や対比に注目し、表現の意図を考えることで設問に正確に対応できる。

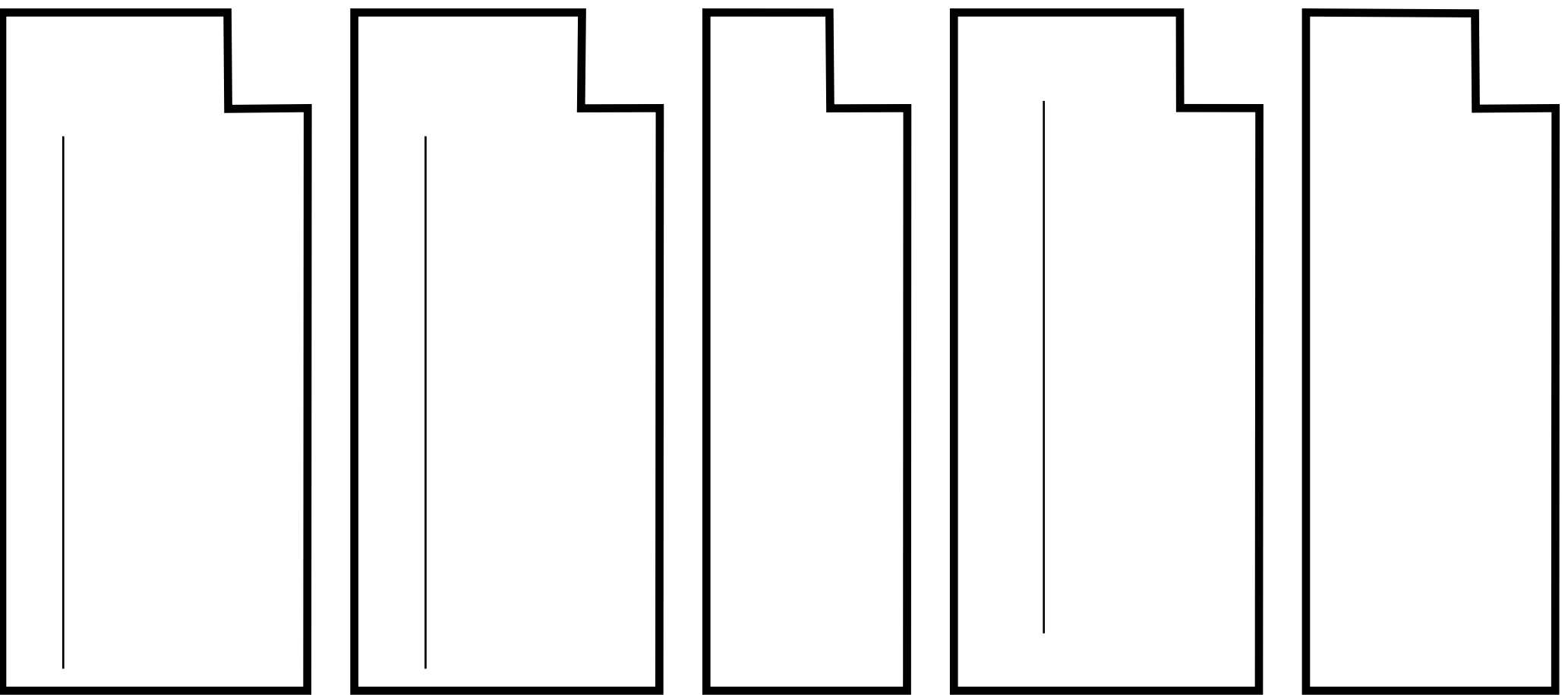
また、随筆文は、筆者の体験や感想の中にある「考え方の核」をつかむことが重要。感情的な語りに流されず、主張・比喩・引用の意図を整理して読むことで、設問の根拠を的確に見つけ出せる。

POINT

場面のカタマリを見抜く！

小説文では、物語を細かく読むよりも、どこで場面が変わるかをつかむことが大切。時間・場所・登場人物が変化すると場面が変化します。場面が変わると、登場人物の心情・関係・状況が変化し始めます。

こうした「場面のカタマリ」を意識して読むと、心情変化の流れが掴めます。



POINT

心情の流れをとらえる！

小説文では、登場人物の感情をそのまま書かず、行動や描写・セリフを通して間接的に表すことが多い。

だからこそ、「どうしてその気持ちになったのか」「その後どう行動したのか」という前後の流れを追うことが大切。

登場人物の感情は、次のような因果の連鎖で動く。

原因（出来事）



思考・判断



心情



行動（表出）

（二）次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

半年ほど前、母の心臓の調子のよくないことがあった。発作性頻脈みやくはくといって、一時的に脈搏みやくはくが二百を越すのである。直接生命に別状はないというものの、本人もまわりも不安になり検査入院ということになった。この大晦日おおみそかで満七十歳になる母は（ア）息災な人で、お産以外は寝込んだことがない。入院は生れて初めての体験である。一カ月ほどで退院出来るから心配ないといってきかせたのだが、死出の旅路にでかける覚悟で出かけたらしかった。

入院して二、三日は、まるでお祭り騒ぎであった。夜になると十円玉のありったけを握って廊下の公衆電話から今日一日の報告をするのである。

三度三度の食事の心配をしないで暮すのがいかに極楽であるか。献立がいかに老人の好みと栄養を考えて作られているか。（注一）看護婦さんがいかに行き届いてやさしいか。テレビのリポーターも顔ま

けの生き生きとした報告であった。A 無理をして自分を励ましているところがあった。三日目あたりから、報告は急激に威勢いきせいが悪く、時間も短くなってきた。四日目からはその電話もなくなった。

追いつみにかかっていた仕事に区切りをつけ、私が一週間目に見舞った時、母はひとまわりも小さくなった顔で、ベッドに坐すわっていた。この日は、よそにかたづいている妹もまじえて姉弟四人の顔が揃そろったのだが、辛いつらいのは帰りぎわであった。

私が弟の腕時計に目を走らせ、
「ではそろそろ」

というかなとためらっていると、一瞬早く母が先手を打つのである。

「B さあ、お母さんも横にならなくちゃ」

晴れやかな声でいうと思い切りよく立ち上り、見舞いにもらった花や果物の分配を始める。押し問答の末、結局私達は持ってきた見舞いの包みより大きい戦利品を持たされて追っ払われるのである。

「見舞いの来ない患者もいるのに、こうやってぞろぞろ来られたんじゃお母さんきまりが悪いから当分はこないでおくれ」

と演説をしながら、一番小さな母が四人の先頭に立って廊下を歩いてゆく。

「X」

くどいほど念を押しエレベーターに私達を押しこむと、ドアのしまりぎわに、
「有難うございました」

今までのぞんざいな口調とは別人のように改まって、デパートの一階にいるエレベーターガールさながらの深々としたお辞儀をするのである。

ストレッチャーをのせる病院の大型エレベーターは両方からドアがしまる。寝巻の上に妹の手編の挽茶色ひねいろの肩掛けをかけて、白くなった頭を下げる母の姿は、C 更にもうひと回り小さくみえた。私は、「開」のボタンを押してもう一度声をかけたいという衝動を辛からうじて押えた。

四人の姉弟は黙って七階から一階までおりていった。弟がくぐもった声で、ポツンと言った。

「たまんねえな」

末の妹が、

「いつもこうなのよ」

という。妹は毎日世話に通い、弟は二日に一度ずつのぞいているが、母は必ずエレベーターまで送ってきて、こうやって頭を下げる。しかも弟にいわせると、「人数によって角度が違ちがう」というのである。

「今日は全員揃そろってたから一番丁寧ていねいだったよ」

お母さんらしいやと私達は大笑いしながら、涙ぐんでいるお互いの顔を見ないようにして駐車場へ歩いていった。

母の改まったお辞儀はこれが二度目である。

〔二〕次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

半年ほど前、母の心臓の調子のよくないことがあった。発作性頻脈といって、一時的に脈搏が二百みゃくはくを越すのである。直接生命に別状はないというものの、本人もまわりも不安になり検査入院ということになった。この大晦日おおみそかで満七十歳になる母は（ア）息災な人で、お産以外は寝込んだことがない。入院は生れて初めての体験である。一カ月ほどで退院出来るから心配ないといってきたが、死出の旅路にでかける覚悟で出かけたらしかった。

入院して二、三日は、まるでお祭り騒ぎであった。夜になると十円玉のありったけを握って廊下の公衆電話から今日一日の報告をするのである。

三度三度の食事の心配をしないで暮すのがいかに極楽であるか。献立がいかに老人の好みと栄養を考えて作られているか。（注）看護婦さんがいかに行き届いてやさしいか。テレビのリポーターも顔まけの生き生きとした報告であった。A無理をして自分を励ましているところがあった。

三日目あたりから、報告は急激に威勢が悪く、時間も短くなってきた。四日目からはその電話もなくなった。

問一 傍線部（ア）～（ウ）の本文中の意味として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

（ア） 息災な

1 病気をしない

2 忙しい

3 活動的な

4 運の強い

問一 傍線部（ア）～（ウ）の本文中の意味として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

（ア）息災な

1

病気をしない

2

忙しい

3

活動的な

4

運の強い

問二 傍線部A「無理をして自分を励ましているところがあった」とはどういうことか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 病気や入院に強いストレスを感じている母が、入院の不満を子供たちに打ち明けることで、不安や恐怖感を和らげようとしているように思えたということ。

2 元々前向きで強い意志を持っている母が、これまで健康で活発に生活してきた習慣や性格が入院中でも現れて、辛いときでもその姿勢を保とうとしているように思えたということ。

3 長年健康に過ごしてきた母が、家族に弱っている姿を見せて、心配をかけたくないという気持ちから、元気に振る舞おうとしているように思えたということ。

4 病気や入院という新しい現実に対応する過程で一時的に無理をして元気に振る舞うことで、新しい状況に少しずつ慣れようとしているように思えたということ。

問二 傍線部A「無理をして自分を励ましているところがあった」とはどういうことか。最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 病気や入院に強いストレスを感じている母が、入院の不満を子供たちに打ち明けることで、不安や恐怖感を和らげようとしているように思えたということ。

2 元々前向きで強い意志を持っている母が、これまで健康で活発に生活してきた習慣や性格が入院中でも現れて、辛いときでもその姿勢を保とうとしているように思えたということ。

3 長年健康に過ごしてきた母が、家族に弱っている姿を見せて、心配をかけたくないという気持ちから、元気に振る舞おうとしているように思えたということ。

4 病気や入院という新しい現実に対応する過程で一時的に無理をして元気に振る舞うことで、新しい状況に少しずつ慣れようとしているように思えたということ。

追い込みにかかっていた仕事に区切りをつけ、私が一週間目に見舞った時、母はひとまわりも小さくなった顔で、ベッドに坐^{すわ}っていた。この日は、よそにかたづいている妹もまじえて姉弟四人の顔が揃^{そろ}ったのだが、辛い^{つらい}のは帰りぎわであつた。

私が弟の腕時計に目を走らせ、

「ではそろそろ」

といおうかなとためらっていると、一瞬早く母が先手を打つのである。

「Bさあ、お母さんも横にならずにちや」

晴れやかな声でいうと思い切りよく立ち上り、見舞いにもらった花や果物の分配を始める。押し問答の末、結局私達は持ってきた見舞いの包みより大きい戦利品を持たされて追っ払われるのである。

問三 傍線部B「さあ、お母さんも横にならなくちゃ」とあるが、このときの母の気持ちを説明したものと最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 自分の病状や入院していることを申し訳なく感じている母は、子供たちが帰ると言い出せないのを察して、彼らの心理的な負担を軽くしたいと思っている。

2 子供たちも仕事があり忙しい時間を縫ってお見舞いに来ているので、長時間の付き添いに申し訳なさを感じ、面倒なことを言われる前にこちらの都合で帰ってもらうように仕向けたいと思っている。

3 入院中ということもあり、体調が良くない状態が続いているため、長時間の会話や付き添いに疲れを感じ、早く帰ってほしいと思っている。

4 家事や仕事を抱えている子供たちを気遣いながらも、母親として病人扱いされていることが我慢ならず、早く帰ってほしいという気持ちになっっている。

問三 傍線部B「さあ、お母さんも横にならなくちゃ」とあるが、このときの母の気持ちを説明した
ものとして最も適切なものを一つ選び、マークせ
よ。

1 自分の病状や入院していることを申し訳なく感
じている母は、子供たちが帰ると言い出せない
のを察して、彼らの心理的な負担を軽くしたい
と思っている。

2 子供たちも仕事があり忙しい時間を縫ってお見
舞いに来ているので、長時間の付き添いに申し
訳なさを感じ、面倒なことを言われる前にこち
らの都合で帰ってもらうように仕向けたいと
思っている。

3 入院中ということもあり、体調が良くない状態
が続いているため、長時間の会話や付き添いに
疲れを感じ、早く帰ってほしいと思っている。

4 家事や仕事を抱えている子供たちを気遣いなが
らも、母親として病人扱いされていることが我
慢ならず、早く帰ってほしいという気持ちに
なっている。

〔三〕古文

古文は、語彙や文法、敬語表現などの基礎知識をもとに、登場人物の立場や感情を正確に読み取ることが大切。背景となる文化や価値観を理解し、省略された主語や指示語の内容を補いながら筋を整理することで、設問の根拠を正しくつかめる。

POINT

単語力を固める！

古文単語は、現代語と共通している言葉もあるが、問題で狙われる重要単語は似ている言葉でも意味がまったく違ふことが多い。

たとえば

「あはれ」＝しみじみとした情趣

(×かわいいそう)

「いたづら」＝むなしい・無駄

(×悪ふざけ)

「すごし」＝もの寂しい

(×すごい)

丸暗記するのではなく、単語帳の解説などを読み込んで記憶のフックを作って繋げて理解していくのがおすすめ。

POINT

文法力を固める！

古文文法は本文を正しく理解するための手がかり。現代語と文法のルールが大きく違うため、文法知識がないと主語や、心情変化などが正しくつかめません。設問も文法事項をポイントとして解く問題も多くあります。

用言・助動詞・助詞・敬語法といった文法項目に何度も繰り返し取り組み、早期に文法力を確かなものにしておくことが重要です。

POINT

主語の省略や指示語が読解のカギ！

日本語は主語を省くことが多く、古文や現代文では特に「誰の行動・気持ちなのか」が書かれていません。

また、「これ」「それ」「こうした」などの指示語も、前後の文脈を読まないと意味があいまいになります。

この2つを正確につかむことが、読解の論理のつながりを理解する第一歩です。

主語の省略は、場面をしっかりとイメージしながら、動作・心情などから「誰が」を掴みます。敬語や接続助詞なども活用して、まずは「誰が」「どうした」のかという大きなあらすじを読み取っていきましょう。

〔三〕次の文章は『今鏡』の一節である。後朱雀天皇は中宮^{げんし}嫺子が亡くなつて悲しみに暮れる。読んで、後の問いに答えよ。

中宮去年よりいつしか[×]ただならずならせ給ひて、霜月の十三日に、左大臣の高倉殿に出でさせ給へりしが、つぎの年四月一日、女御子生みたてまつらせ給ひて、またうち続き、またの年も同じやうにまかり出でさせ給ひて、丹波守行任の主の家にて、長暦三年八月十九日に、なほ女宮生みたてまつり給ひて、同じき二十八日に失せ給ひにき。御年二十四。あさましくあはれなること限りなし。いと秋のあはれそひて、有明の月の影も心をいたましむる色、夕べの露のしげきも涙を催すつまなるべし。

かくて、九月九日に内より、故中宮の御ために、七寺に御誦経せさせ給ふ。帝御服たてまつりて、^{〔注1〕}廃朝とて、清涼殿の御簾おろし籠められ、日の御膳まるも、声たてて奏しなどすることもせず、よろづ^Yしめりたるままには、夕べの螢をもあはれとながめさせ給ふ。秋の燈火かけつくさせ給ひつつぞ、心苦しき折節なりけるに、二十日ぞ解陣^{げぢん}とかいひて、よろづ例様にて、御殿の御簾などもまき上げられ、すこし晴るるけしきなりけれど、なほ御^Zけしきは尽きせずぞ見えさせ給ひ^甲。

神無月も過ぎぬれば、御忌^{いみ}末になりて、かの失せ給ひにし宮にて、御仏事あり。梢の色も、風のけしきも、思ひ知り顔なる様なり。紅払はぬ昔のあとも、法の庭とて、ことに清めらるるにつけても、折にふれてあはれ尽きせざりけり。

十一月の七日ぞ、^①内^{まじらひ}には、はじめて政^{まつりごと}せさせ給ふ。南殿に出でゐさせ給ひて、^{〔注2〕}官奏^{くわんそう}などあるべし。

^{〔注3〕}後一条院中宮に侍りける出雲の御といふが、^②この宮に侍りし伊賀少将がもとに、

いかばかり君嘆くらむ数ならぬ身だにしぐれし秋のあはれを
と詠めりける。^{〔注4〕}秋の宮、うち続き秋失せさせ給へるに、いとらうありて、思ひよられけるも、あはれにこそ聞え侍りしか。

またの年の七月七日、関白殿に内より御消息ありて、

^A 去年の今日別れし星もあひぬなりなどたぐひなきわが身なるらむ
と詠ませ給ひて侍りけむこそ、いとかたじけなく、情おほくおはしましける御事かなとうけたまはりしか。

〔三〕次の文章は『今鏡』の一節である。後朱雀天皇は中宮姫子^{げんし}が亡くなって悲しみに暮れる。読んで、後の問いに答えよ。

中宮去年よりいつしか×ただならずならせ給ひ
て、霜月の十三日に、左の大臣の高倉殿に出でさせ給へりしが、つぎの年四月一日、女御子生みたてまつらせ給ひて、またうち続き、またの年も同じやうにまかり出でさせ給ひて、丹波守行任の主の家にて、長暦三年八月十九日に、なほ女宮生みたてまつり給ひて、同じき二十八日に失せ給ひにき。御年二十四。あさましくあはれなること限りなし。いと秋のあはれそひて、有明の月の影も心をいたましむる色、夕べの露のしげきも涙を催すつまなるべし。

問一 傍線部X、Y、Zの現代語訳として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

X ただならずならせ給ひて

1 妊娠なさって

2 病気になるれて

3 嫉妬なさって

4 物の怪に取り憑かれなさって

問一 傍線部X、Y、Zの現代語訳として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

X ただならずならせ給ひて

1 妊娠なさって

2 病気になられて

3 嫉妬なさって

4 物の怪に取り憑かれなさって

かくて、九月九日に内より、故中宮の御ために、

七寺に御誦經せさせ給ふ。帝御服たてまつりて、（注

1）廃朝とて、清涼殿の御簾おろし籠められ、日の御

膳まるも、声たてて奏しなどすることとせず、よ

ろづ¹しめりたるままには、タベの蛸をもあはれと

ながめさせ給ふ。秋の燈火かかげつくさせ給ひつつ

ぞ、心苦しき折節なりけるに、二十日ぞ解陣^{げぢん}とかい

ひて、よろづ例様にて、御殿の御簾などもまき上げ

られ、すこし晴るるけしきなりけれど、なほ御之^みけ

しきは^しき^きは^は尽きせずぞ見えさせ給ひ甲^か。

注1 天皇が天変・病氣・服喪などのために朝廷の
廃朝 政務を行わないこと

問一 傍線部X、Y、Zの現代語訳として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

Y しめり

1 恨み嘆いて

2 水に濡れてしまつて

3 もの思いに沈んで

4 戸を閉めきつて

Z けしき

1 眺め

2 考え

3 様子

4 天候

問一 傍線部X、Y、Zの現代語訳として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選び、マークせよ。

Y しめり

1 恨み嘆いて

2 水に濡れてしまつて

3 ③ 物の思ひに沈んで

4 戸を閉めきつて

Z けしき

1 眺め

2 考え

3 ③ 様子

4 天候

問二空欄甲に入る語として最も適切なものを一つ
選び、マークせよ。

1 けり

2 ける

3 けれ

4 けむ

問二空欄甲に入る語として最も適切なものを選び、マークせよ。

- 1 けり
- 2 ける
- 3 けれ
- 4 けむ

神無月も過ぎぬれば、御忌^{いみ}末になりて、かの失せ

給ひにし宮にて、御仏事あり。梢の色も、風のけし

きも、思ひ知り顔なる様なり。紅払はぬ昔のあと

も、法の庭とて、ことに清めらるるにつけても、折

にふれてあはれ尽きせざりけり。

十一月の七日ぞ、①内には、はじめて政^{まじらひ}せさせ

給ふ。南殿に出でゐさせ給ひて、（注2）官^{くわん}奏^{そう}などある

べし。

注2 太政官から天皇に政治に関することを申し上
官奏 げること。

（注3）後一条院中宮に侍りける出雲の御といふが、

②この宮に侍りし伊賀少将がもとに、

いかばかり君嘆くらむ数ならぬ身だにしぐれし

秋のあはれを

と詠めりける。（注4）秋の宮、うち続き秋失せさせ給

へるに、いとらうありて、思ひよられけるも、あは

れにこそ聞え侍りしか。

注3

後一条院中宮

藤原威子。後朱雀天皇の兄である後一条天皇
の中宮。

注4

秋の宮

中宮・皇后の異称。ここでは姫子・威子のこ
と。

問三 傍線部①、②が示す人物の組み合わせとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 ①帝 ②後一条院中宮

2 ①関白殿 ②帝

3 ①後一条院中宮 ②出雲の御

4 ①帝 ②故中宮

5 ①関白殿 ②故中宮

6 ①後一条院中宮 ②関白殿

問三 傍線部①、②が示す人物の組み合わせとして最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 ①帝 ②後一条院中宮

2 ①関白殿 ②帝

3 ①後一条院中宮 ②出雲の御

4 ①帝 ②故中宮

5 ①関白殿 ②故中宮

6 ①後一条院中宮 ②関白殿

またの年の七月七日、関白殿に内より御消息あり
て、

A 去年の今日別れし星もあひぬなりなどたぐひ
なきわが身なるらむ

と詠ませ給ひて侍りけむこそ、いとかたじけなく、
情おほくおはしましける御事かなとうけたまはりし
か。

問四 傍線部Aの和歌「去年の今日別れし星もあひぬなりなどたぐひなきわが身なるらむ」を説明したものと最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 去年の七夕に別れ別れになった牽牛星けんぎゅうせいと織女星しよくじょも、一年後の今日にはふたたび会っている。それなのに、私は中宮と二度と会うことができなくてつらい、と帝が悲しみを述べている。

2 去年の七夕に別れ別れになった牽牛星と織女星も、一年後の今日は雨で会うことができなかった。それと同じように、私も中宮と会うことができなくてつらい、と帝が悲しみを述べている。

3 去年中宮と死別した私は、七夕の今日、牽牛星と織女星を眺めている。それなのに、ここに中宮がないのはどうしてだろう、と帝が悲しみつついぶかしんでいる。

4 去年中宮と死別した私と同じく、七夕の今日、牽牛星と織女星も雨で会うことができなかった。夫婦の別れは、どうしてこんなに苦しいのだろう、と帝が悲しみつついぶかしんでいる。

問四 傍線部Aの和歌「去年の今日別れし星もあひぬなりなどたぐひなきわが身なるらむ」を説明したものと最も適切なものを一つ選び、マークせよ。

1 去年の七夕に別れ別れになった牽牛星けんぎゅうせいと織女星しよくじょも、一年後の今日にはふたたび会っている。それなのに、私は中宮と二度と会うことができなくてつらい、と帝が悲しみを述べている。

2 去年の七夕に別れ別れになった牽牛星と織女星も、一年後の今日は雨で会うことができなかった。それと同じように、私も中宮と会うことができなくてつらい、と帝が悲しみを述べている。

3 去年中宮と死別した私は、七夕の今日、牽牛星と織女星を眺めている。それなのに、ここに中宮がないのはどうしてだろう、と帝が悲しみつついぶかしんでいる。

4 去年中宮と死別した私と同じく、七夕の今日、牽牛星と織女星も雨で会うことができなかった。夫婦の別れは、どうしてこんなに苦しいのだろう、と帝が悲しみつついぶかしんでいる。